

コミュニケーション能力と規範意識を育む小学校における学級活動

Classroom activities in elementary schools that foster communication skills and norm awareness

名目良律子, 末内 佳代

NAMERA Ritsuko and SUEUCHI Kayo

鳴門教育大学学校教育研究紀要

第35号

Bulletin of Center for Collaboration in Community

Naruto University of Education

No.35, Feb, 2021

コミュニケーション能力と規範意識を育む小学校における学級活動

Classroom activities in elementary schools that foster communication skills and norm awareness

名目良律子, 末内 佳代

〒772-8502 鳴門市鳴門町高島字中島748番地 鳴門教育大学大学院
NAMERA Ritsuko and SUEUCHI Kayo
Naruto University of Education, Graduate School
748 Nakajima, Takashima, Naruto-cho, Naruto-shi, 772-8502, Japan

抄録:本稿は、生徒指導の最終目的である「社会的なりテラシーの育成」を念頭に置き、コミュニケーション能力や規範意識を高めるための学級活動を通して、社会をよりよくする子どもを育成することを目指した実践研究報告である。6年生を対象とし、よりよい集団の形成と同時進行で規範意識を育むために生活目標である「時間を大切にしよう」の行動目標を決定する話し合い活動を実施し、児童の記述データをもとに考察した。その結果、この活動が児童のコミュニケーション能力や規範意識を高めることができる機会となり得ることが示唆された。さらに、児童自身が自己理解を深め、次の課題に他者と協働しながら取り組んでいこうという意欲を高めるためには、話し合い活動の振り返りや継続的に取り組むための工夫、家庭との連携が今後の課題であると考えられる。

キーワード: コミュニケーション能力, 規範意識, 自己理解, 他者理解

Abstract : This paper is a practical research paper aiming to foster children who can contribute to better society through classroom activities to enhance their communication skills and norm awareness. The pupils of the sixth grader were targeted. We settled specific action goals after discussion to achieve “Let’s use the time effectively!”, which was one of our classroom targets. We considered them with the pupils’ descriptive data. As a result, it showed that this activity could be opportunities that enhanced the pupils’ communication skills and norm awareness. To deepen pupils’ self-understanding and enhance the motivation to collaborate with others and work on the next problems, the feedback of the pupils’ discussion, some ideas to work on continuously and the collaboration with families will be challenged for the future.

Keywords : communication skills, norm awareness, self-understanding, understanding others

I. はじめに

1. 今日の課題

今日の教育課題として、児童の自己肯定感や主体的に学習に取り組む態度、社会参画の意識等の低さが挙げられている。

森田(2010)は、これからの教育には、社会を維持し、よりよいものにしていく責任は自分たち一人一人にあるという公共の精神を自覚し、今後の社会の在り方について考え、主体的に行動する社会の形成者として社会の中でその時々状況を判断しながら、それらを適切に行使することによって、個人や社会の目的を達成していく包括的・総合的な能力である「社会的なりテラシー」を身に付けることこそが、自己指導能力や課題解決能力の育

成にもつながるとしている。

また、文部科学省(2015)「2030年の社会と子どもたちの未来」では、これからの予測できない未来に対応するためには、社会の変化に受け身で対処するのではなく、主体的に向き合って関わり合い、その過程を通して一人一人が自らの可能性を最大限に発揮し、よりよい社会と幸福な人生を自ら創り出していくことが重要であるとしている。

さらに、学校は様々な人と関わりながら学び、自分の存在が認められることや、社会をよりよくできることなどの実感を持つことができる場であることから、社会的なりテラシーの育成と、児童自身がよりよい人間関係を築く場としての「学校」の意義についても今一度捉え直しておく必要がある。

2. コミュニケーション能力

富田（2020）は、人間関係づくりについて、人を信じて勇気を出して近づく「せめぎ合い」と、互いが歩み寄りゆずり合う「折り合う」ことを人間同士で繰り返すことで、支え支えられる関係にあるのだと感ずるようになる」と述べている。

また、文部科学省『小学校学習指導要領解説特別活動編（以下、『学習指導要領』）』（2017）には、集団活動の中で育む資質・能力として、「人間関係をよりよく形成していくために、様々な場面で、自分自身及び自分と違う考えや立場にある多様な他者と、互いを認め合いながら、助け合ったり協力し合ったり、進んでコミュニケーションを図ったり、協働したりしていくこと」と記されている。

このように、よりよい人間関係を築く上で、他者とコミュニケーションを図ることは不可欠であり、学校において児童同士で話し合ったり、協働したりする体験を繰り返すことが、コミュニケーション能力を高めていくことになると考える。コミュニケーション能力が高まれば、自己理解や他者理解が促され、協働性や異質なものを認め合う土壌を育み、生活集団、学習集団として機能するための基盤となるとともに、集団への所属感、連帯感を育む。このことこそが、これからの社会をよりよくする子どもの育成につながると考える。

3. 規範意識

乳幼児期からの家庭におけるしつけや基本的なマナーの育成、基本的生活習慣の確立等は、社会性を身に付け

るための基礎となる。義務教育段階では、それらを基に日常の集団生活を通してルールを守ることの必要性を理解させるとともに、規律ある行動を身に付けさせることが大切である（国立教育政策研究所、2008）。また、文部科学省『生徒指導提要』（2010）は、校内規律は「守られているもの」という意識から、規範の意義を理解し、児童生徒自らが規範を守り行動するという自律性を育むことが重要であると述べている。そのためには、規範を守る活動だけではなく、自分たちでまわりをつくって守る活動が必要である。『学習指導要領』においても、このような活動を大切にすることは規範意識を確立したり、積極的に社会参画する力の育成にもつながるとしている。

また、社会の変化が著しい今日においては価値観も多様化し、個々が持っている規範の基準には違いがあるので、まずは、規範を守ることが皆が安全で楽しく生活できることにつながるという規範の意義について、児童自身が認識する必要がある。そして、児童に基本的生活習慣を確立させるとともに、人とのつながりを基盤とした規範意識を高め、それに基づいた行動様式を定着させることが重要である。

つまり、社会の中では、互いを理解し合い、認め合う中で、共に気持ちよく生活できるような方法を見つけていかなければならないと考える。

4. 学級活動

『学習指導要領』では、特別活動で様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、互いのよさや可能性を発揮

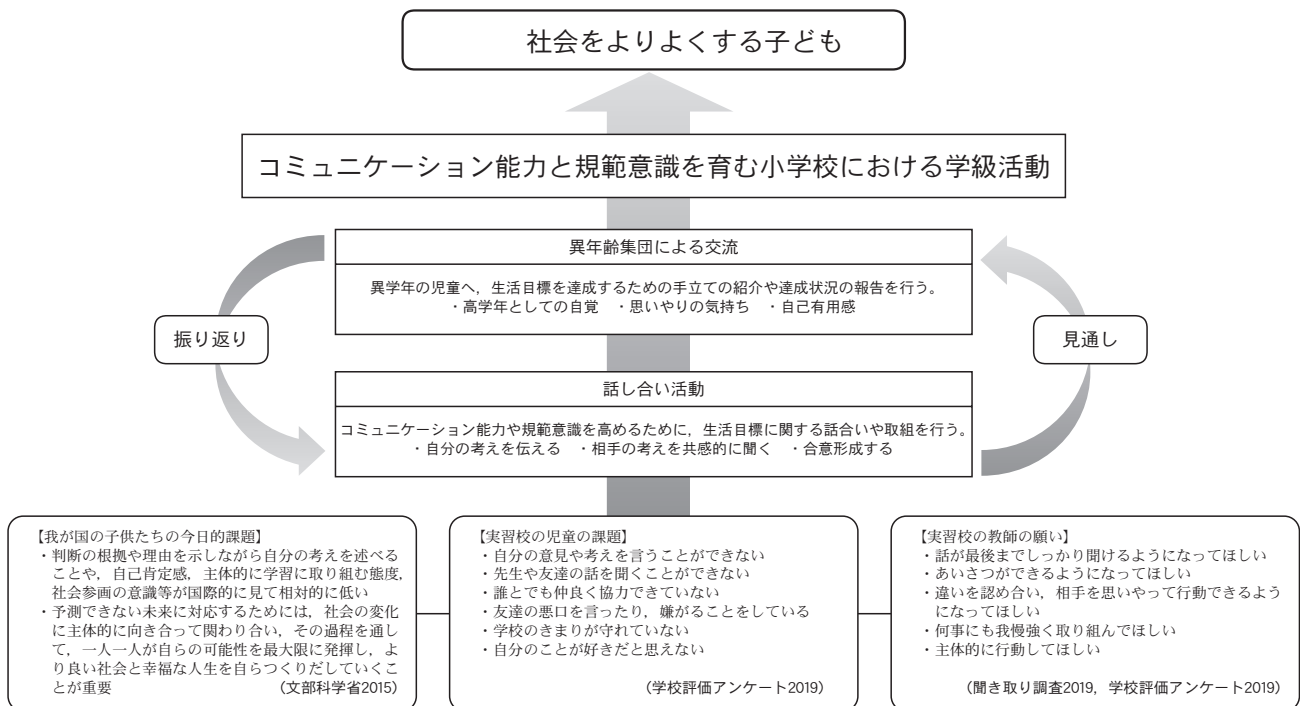


図1 研究の概要

しながら集団や自己の生活上の課題を解決するとし、集団での活動として学級活動、児童会活動、クラブ活動、学校行事を挙げている。学級活動は最も身近で基礎的な所属集団での活動であり、特に「学級や学校における生活づくりへの参画」は、特別活動における自発的、自治的な活動の基本となるものである。この学級活動に焦点を当てて実践を行うことで、児童一人一人のよさや可能性を生かすとともに、集団における行動や生活の在り方を学びながらよりよい集団の基盤が形成できると考える。

II. 研究の目的

本研究は、社会生活を送る上での基盤となるコミュニケーション能力と規範意識の2つに着目し、小学校において中心的な役割を担う6年生の学級活動の実践を通して、社会をよりよくする子どもの育成を目指すことを目的とする（図1）。

III. 方法

1. 対象

6年1学級33人で実施。

2. 実施時期

X年7月に実施（表1）。

3. 内容

1) 話し合い活動

コミュニケーション能力と規範意識を高めるために、生活目標の具体的な行動目標を考える話し合い活動を行う。

2) 異年齢集団による交流

高学年としての自覚や思いやりの気持ちを持たせるために、異学年の児童が生活目標を達成するために手立ての紹介をしたり、達成状況の報告を行ったりする。

4. 分析方法

話し合い活動は、互いの意見の違いや多様な考えがあることを大切にしながら、課題解決の方法を模索したり、折り合いを付けたりして合意を形成して決定するために『学習指導要領』の学級活動「学級や学校における生活づくりへの参画」の学習過程をもとに実践する。そして、学習中の児童の考えと振り返りシートの自由記述のデータを照合してまとめ、考察した。

IV. 小学校における学級活動の実践

1. 話し合い活動

1) 活動の概要

『学習指導要領』より「学級活動(1) 学級や学校における生活づくりへの参画の学習過程（例）」を参考に、実習校の生活目標についての話し合い活動を実施した。この学習過程は、[①問題の発見・確認]、[②解決方法等の話し合い]、[③解決方法の決定]、[④決めたことの実践]、[⑤振り返り]の5つから成る。全活動の流れと内容、活動の手立て、児童の考えをまとめたものを資料1に示す。

この過程に沿って話し合いを進めることにより、児童が自由な意見交換を行い、全員が等しく合意形成に関わり、役割を分担して協力するといった活動を展開する中で、よりよい人間関係を形成し、集団や社会に参画し問題を主体的に解決しようとすることを目的としている。

【①問題の発見・確認】の段階では、これまでに学校の諸問題について目を向けて課題解決を図るという経験が少ないという児童の実態を踏まえ、筆者が実習校児童に対して行った、「今月のめあてを知っていますか」、「今月のめあてを守っていますか」などの生活目標に関するアンケート結果をグラフ化して実態を提示し、児童が自分たちの学校における生活上の問題から課題を見いだせるようにした。生活目標が形骸化され、あまり守られていないという課題を見いだした後、8月の生活目標である「時間を大切にしよう」についての話し合い活動を行い、時間を大切にするには具体的にどうすればよいか、児童一人一人が解決に向けて自分の考えをもち、付箋に書いた。

表1 学習活動の実践

日時	ねらい	内容	取組の区分
7月10日	8月の生活目標「時間を大切にしよう」をみんなに守ってもらうにはどうすればいいかを考え、行動目標を決定する。	・学校生活で時間を大切にすることはどうか、自分の考えを持って、伝える。 ・他者の考えを共感的に聞きながらグループで話し合い、グループの考えを決定する。 ・学級全体で話し合い、合意形成して学級の考えを決定する。	話し合い活動
7月6日～	異年齢の児童同士で協力し、生活目標を守るための活動に自主的、実践的に取り組むことで、高学年としての自覚や思いやりの気持ちを持てるようにする。	・学級で決定したことを、代表委員会や校内放送で配信する。 ・あいさつ運動を行う。	異年齢集団による交流

【②解決方法等の話し合い】の段階では、4人グループになり、前段階でもったそれぞれの考えをもとに意見を出し合ったり、くらべ合ったりしながら、グループで意見をまとめた。その際、限られた時間内に複数の意見を一つにまとめることができるよう、『みんな、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小学校編（国立教育政策研究所、2019）』の「合意形成のプロセスの例」を参考に筆者が作成した「まとめる裏ワザ」を模造紙に拡大して提示し、合意形成を図るときの一助とした。

「まとめる裏ワザ」には、合意形成の方法として、①くっつける、②新しくつくり出す、③条件をつける、④「今はこれでしょ！」で決める、⑤「それもいいね」でゆずる、⑥ちょっとずつ全部する、⑦みんなが納得して多数決、の7つの例を示した。①くっつけるとは、2つ以上の意見を合わせて1つの考えをつくることである。②新しくつくり出すとは、出された意見のよいところをもとに新しい考えをつくること、③条件をつけるとは、出された意見に内容を付け加えて考えをつくること、④「今はこれでしょ！」で決めるとは、今必要なことは何か優先順位を決めて考えをまとめることである。また、⑤「それもいいね」でゆずるとは、友達の意見に対する思いを共感的に聞いた上で、今回は自分の意見を取り下げて考えをまとめること、⑥ちょっとずつ全部するとは、全員の意見を集約して全て行うこと、⑦みんなが納得して多数決とは、意見を十分出し尽くし、決まったことは必ず協力して取り組むことを全員が承認した上で多数決を行い、考えをまとめることである。

児童には、各例について具体例を挙げながら説明を行い、これらの方法は今後の生活や学習の中でも役立つものであることを伝えた。また、各グループにA3サイズ用の紙を配布し、それに出し合った付箋を貼っていき、話し合う過程でグループのメンバー全員の考えが確認できるようにした。

【③解決方法の決定】では、グループでまとめた考えをもとに学級全体で話し合い、時間を大切にするための3つの具体的な行動目標を決定した。

【④決めたことの実践】については、1年生が生活目標について知り、守ろうと思うように、6年生が1年生の教室へ行き、話し合いで決定したことについて工夫して紹介したり、休み時間に一緒に遊んでよりよい関係をつくったりする交流活動の実施を考えていた。しかし、コロナ感染拡大防止のため異年齢集団による交流活動が行えず、決定したことを代表委員会や校内放送で配信する実践となった。

【⑤振り返り】については、月末に全校の各学級で、どのくらい今月の行動目標を守ることができたかや、生活目標に基づいて生活してみてどんなことを感じたかについて振り返った。

2) 結果と考察

(1) 話し合い活動中の児童の考えから

【①問題の発見・確認】では、時間を大切にするには具体的にどうすればよいかを、自分で考える時間を3分程度とった。まず自分で考えてみることや、話し合うためには自分の考えをしっかりとっておくことの大切さを話してから考える時間をとったので、児童は一生懸命に考えていたように思う。ここで出た児童の考えは、【時間への注意】、【時間に関するきまりを守る】、【時間の計画】、【時間の有効な使い方】、【他者への配慮】の5つのカテゴリーに分けることができた。

【時間の有効な使い方】に関することを考えた児童が多く、その中では「けんかをしない」、「先生がしゃべり出したり、友達が発表しているときはだまる」、「休み時間の間に次の授業の準備をする」など具体的な行動を挙げた児童もいた。導入部分で、筆者が、生活目標が特に1年生には難しく、これまで活用されていない実態について話し、1年生でも分かるような行動目標にしようと呼びかけたことから、より具体的な言葉で表そうと考えてくれた児童がいたものと考えられる。

また、「時計を見て行動する」、「タイマーをセットしてしたいことをする」などの【時間への注意】、「チャイム着席をする」、「トイレは休み時間に行って授業中はなるべくいかない」などの【時間に関するきまりを守る】、「計画を立てて行動する」、「自分にできることを考えてみる」などの【時間の計画】に関する考えも、ほとんどの班で見られた。日頃学校生活を送る上で、多くの児童が意識していることであることが分かる。

この他、わずかではあるが「相手の気持ちを考え行動する」、「違うことをしている人がいたら声をかけて注意する」という【他者への配慮】に関する考えが見られた。多くの児童が日頃の自分自身の生活を振り返って考えていた中で、他者のことを思って解決策を考えた児童がいたことが分かる。

【②解決方法等の話し合い】では、自分の考えを書いた付箋をグループ内で見せ合い、そう考えた理由などについて話し合い、合意形成してグループの考えを1つにまとめた。1グループの児童数を4人にしたため話し合いやすく、多くのグループで積極的に話し合うことができていた。しかし、中にはメンバー全員が話し終わり、話し合いが途切れているグループもあった。一人一人の思いを大切にしながらもお互いに納得して合意形成できるよう机間巡視の際に、他者の考えや理由を聞いて疑問や質問がある場合は尋ねてみると話し合いが深まることや誰かが進行役の役割をするとスムーズに話し合いが進むことなどをアドバイスしたりした。また、特別に支援が必要な児童には、筆者がその児童の考えを直接尋ねて確認するなどした。

どのグループもほぼ時間内に合意形成し、1つの考えにまとめることができた。全てのグループの考えに、「1時間の授業を大切にする」、「けんかをしない」などの【時間の有効な使い方】に関する内容が入っており、「時間を無駄にしない」ということが全グループの共通の目的であることが分かる。時間を無駄にしないための手立ては、「時間をよく見て計画を立てる」、「自分にできることを考えて、自分にプラスになるようなことをする」、「けんかをしないで友達と話す」など、グループによって様々である。

また、合意形成の方法としては、個人の考えの言葉を一部取ってグループの考えの文言に反映させていたり、いくつかのカテゴリーをくっつけてグループの考えとしていたりしていることや、1つのカテゴリーに関することだけを取り上げてグループの考えとしていることから、提示した裏ワザにある、いくつかの意見を「くっつける」方法や、今の自分たちにとってどれが一番必要か優先順位をつける「今はこれでしょで決める」の方法が多く使われたと考えられる。

【③解決方法の決定】では、グループの考えをホワイトボードに書いて黒板に掲示しながら、代表者が学級全体に紹介した。キーワードを手掛かりにして学級全体で話し合い、学級の考えを8月の行動目標として次の3つに決定した。

1つ目は、「めあてを確認しよう」である。ここで言うめあてとは、児童が学習時間の初めに確認する、その時間の目標のことである。計画を立てるということは実習校のみんなにとってどうすることなのかを考えるうちに、まずはその時間何を目標にして学習するのかを確認することが一番大事ではないかということで、決定した。これは、【時間の計画】に関することである。

2つ目は、「時計を見て動こう」である。1年生でちょうど時刻を読む学習をすることと、どの学年の児童にとっても時間を無駄にしないための基本的な行動であることから決定した。これは、【時間への注意】に関することである。

3つ目は、「今しなければいけないことをきちんとしよう」である。これは【時間の有効な使い方】に関することであるが、他の2つと比べてやや抽象的な表現となった。学年や時間によって今しなければいけないことは違うので、具体的に決めることが難しかったと考えられる。全校に紹介する際に、各学級で今しなければいけないことについて考えてみることを呼びかけようということになった。

このように、①から③の段階の児童の考えがまとまっていく過程を見てみると、児童なりに、全員の考えを大切に合意形成しようとしたことが伝わってくるし、学校の決まりを自分たちのこととして考え、自分たちが

学校の決まりづくりに関わったという実感が少しは得られたのではないかと考える。

(2) 振り返りシートの自由記述から

【①問題の発見・確認】では、「脳の体操みたいだった」、「あまり僕には思いつかなかった」との記述があるように、自分の考えを持つことに苦労した児童がいることが分かる。また、「だいたいの人が時間を気にするということを書いていた」と、皆思っていることがよく似ていると感じた児童もいれば、「考えがばらばらだった」と感じた児童もいた。【解決方法の決定】を行うにあたって自分の考えを持つことは重要であるが、自分だけでは考えが思いつかなかったり、考えをまとめることは困難だと感じていたりする児童もいるということが明らかになった。だからこそ、まず自分自身で考える時間を確保することは、課題解決のために複数で話し合うことの必要性を感じたり、話し合うことのよさに児童自身が気づいたりするきっかけになると考えられる。

【②解決方法等の話し合い】では、「少しむずかしかったけど、分かりやすいいい言葉を作ろうとしたし、友達と一緒に考えることはできたと思う」、「みんなが書いたふせんをくっつけたりして工夫できた」の記述から、なんとかよりよい生活づくりのためにグループ内の考えをくっつけたり、新しくつくり出したりして、考えを1つにまとめようとしている様子がうかがえる。まとめる裏ワザも、児童の話し合いの一助となったように感じる。

また、「自分の意見をみんなに伝えられたのでよかった」、「この学習で、少し人前で何か言うことが得意になった気がした」と考えを伝えられた喜びを感じた児童や、「いろんな言葉が出てきて全部いいなあと思った」、「みんなの考えを聞いてより深まった気がした」と他者の意見を共感的に聞いた児童がいた。さらに、「意見をぶつけ合うことができてうれしかった」、「いい話し合いができた」と感想を記述している児童もいた。このことから、グループでの話し合い活動が、コミュニケーション能力の一つである、自分の考えを伝える、相手の考えを共感的に聞くことを体験できる場であったことが分かる。また、冒頭にも述べたように、支え支えられる関係にあるのだと感じ、よりよい人間関係を築くために必要な、他者とのせめぎ合いや、折り合いを付けながら合意形成できていた児童がいたことも明らかである。

しかし、「話し合いがうまく進まなかったの、次はうまく進めたいと思った」との記述もあり、その理由として「発表などがあまりできなかったから」と記されていた。このことから、話し合いに必要な自分の考えを伝える、相手の考えを共感的に聞くなどのコミュニケーション能力には個人差があることが改めて分かった。また、話し合うメンバー構成などの環境が、コミュニケーション

ン能力を発揮できるかどうかの一因になるということも考えられる。

【③解決方法の決定】では、「その人が時間を大切にするために、どんなことを考えているのかがよく分かった」、「自分の考えを相手に伝えることも大事だけど、相手の考えを共感的に聞く事も大事なんだと気づいた」、「ずっと自分のがいいとゆうやつがいたのでおもしろくなかった」の記述があるように、意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるためには、共感的に聞くことが必要であることを感じた児童がいたことが分かる。自分の考えを伝えることや主張すること、相手の考えを共感的に聞くことや受け入れることは、一見相反することのように思われがちであるが、児童の様子や活動後の記述から、心から共感し受け入れるために自分の考えを伝え合うことが必要なのではないかと改めて感じた。

また、「決めるのが難しかった」、「まとめる裏ワザを使ってまとめたかった」、「何個もいいところがあって、決めるのに時間がかかったけど、楽しかった」との記述からは、合意形成を図ることは児童にとっても容易なことではなく、それをするためには何らかの手立てが必要であることが分かる。今回作成した「まとめる裏ワザ」は児童にとって参考になった部分もあったと思うが、より具体的な説明を行うことや繰り返し用いて定着させることなどが必要であると考えられる。

【④決めたことの実践】においては、話し合い活動で決めたことについて1年生のために自分たちができるところを考え、異年齢集団による交流の中で自己の役割を果たしたり、協働したりして実践する予定であった。しかし、コロナ感染症拡大防止のため、実習校では全校集会や学年間での交流等は実施しないことになった。そこで、学級で決定した行動目標を代表者が書き、全学級に配布して掲示してもらったり、校内放送や代表委員会で行動目標の決定理由や内容を説明したりすることしか実施できなかった。

しかし、振り返りシートからは、「6年生がまとめ役ということが改めてわかった」、「低学年でも守りやすいルールを使ってみようかな」、「今月のめあてというのは6年生が決めてきちんと学校のことをしていくのは大変だと思うけど、この学校がよりよい学校になればいいと思う」などの記述が見られ、学校生活をよりよくするための高学年としての自覚や低学年に対する思いやりの気持ちが芽生えている。

また、8月の生活目標に関して「ただ時間を大切にすただけでなく、その大きな目標のために少しずつがんばっていくことが大切なんだなと思った」、「この学習で学んだ時間の大切さを生活で取り入れようと思った」、「たまにひまなときでも、なにかできるときがあるからきちんと計画を立ててがんばりたい」、「めあてがみんな

守れたらいいなと思った」、「自分も気をつけます」などの記述が見られ、児童が決定したことについて、自己の役割を果たそうという気持ちでいることが分かる。規範についてよく考えたり、これまでの生活やこれからの生活と照らし合わせて自分自身を振り返ったりして、規範を内面化できた児童がいたと考えられる。

以上のことから、この話し合い活動は、児童にとってコミュニケーション能力の一つである、自分の考えを伝えること、相手の考えを共感的に聞くこと、合意形成することを試したり、活用したりする場であると同時に、「時間を大切にしよう」という規範意識や社会参画の意識を高めることができる機会となり得たと捉えることができる。また、人間関係と規範意識や社会参画の意識が相互に関わり合っていて、大きく影響し合うものであるということも明らかとなった。

次年度は6年生が1年生児童と直接関わり合って交流する中で、責任を持って1年生に生活目標を守ることの大切さや学校生活の様子を伝え、共によりよい学校生活を送ってほしいという意識を高められるようにしたいと考えている。

【⑤振り返り】についても、【④決めたことの実践】同様異年齢集団による交流での振り返りは行えなかったが、8月末に全校の各学級へ生活目標に対する振り返りシートを配布し、8月の生活目標を守ることができたかや、生活目標に基づいて生活してみて気づいたことや感じたことなどについて振り返ってもらった。成果と課題を確認し、新たな課題発見につなげたいと考えている。

2. 今後の課題

本研究の今後の課題として、次の3点を挙げる。

第1に、振り返りの在り方についてである。本実践では、活動前後に実施したアンケートや活動に用いたワークシートをポートフォリオとして蓄積したり、決めたことがどの程度実践できたかを学級全体で振り返ったりした。しかし、単発的な活動であったうえ、他の集団活動との関連付けができておらず、十分に自己理解が深まったり、学ぶ意欲が高まったりしたとは言えない。児童自身が成長を実感し、成果や課題を次の課題解決に生かせるようにするためには、実践と振り返りを繰り返す中で教師からのフィードバックや価値づけにとどまらず、教師との継続的な対話や児童同士の相互評価を行うことが大切である。実践をじっくり振り返って多面的・多角的に自己理解を深められる時間を確保すると同時に、その振り返りに有効なワークシートの開発が必要である。

第2に、継続的な取組の必要性についてである。本実践で8月の生活目標に関する話し合い活動を行ったところ、児童の感想等からコミュニケーション能力と規範意識を高めるための機会となり得ることが示唆された。今

後活動を繰り返すことで、より児童が主体となって話し合い、自主的、実践的に活動を運営できるようになると考えられる。そうすれば、児童同士がコミュニケーションを図る機会も増え、きまりの意義を理解したり、規範意識を高めたりすることにつながり、積極的に社会参画する子どもの育成にもつながると考える。従って、継続的な取組として行えるように、特別活動の新たな年間計画の作成や、6年生児童と児童会や委員会活動等との連携の在り方の見直し、学級活動でスムーズに話し合い活動を進められるような組織づくりや手立ての工夫などに取り組むことが必要である。

第3に、家庭との連携についてである。よりよい人間関係を築き、よりよい社会をつくっていくためには、コミュニケーション能力、規範意識は必要不可欠なものである。しかし、これらは学校生活においてのみ育むものではない。学校で学んだことを家庭でやってみることや家庭で経験したことをもとに学校でも考えてみることは本当の学びである。その学びへと進めるためにも、学校で実践したことを学年便り等で紹介したり、週末に家族と取り組んで一緒に考えてみたりする場を設定するなど家庭との連携が必要であると感じた。生活の基盤である家庭と学校が連携することで、児童はさらに広い地域社会でも、安心して学んだことを試すことができるようになると思う。

(注) 本研究は、鳴門教育大学教職大学院における実践研究の一環として行ったものである。研究にあたって、実習校の協力と支援に厚く御礼申し上げます。

引用・参考文献

- 新井邦二郎 (2002) 「規範意識の成長 (児童期)」, 深谷昌志編著『子どもの規範意識を育てる—子どもの規範感覚の検証と子どもの規範形成の探究—』, 教育開発研究所 pp. 82-85.
- 菅野仁 (2008) 『友だち幻想 人と人の〈つながり〉を考える』, ちくまプリマー新書.
- 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター (2008) 「規範意識をはぐくむ生徒指導体制—小学校・中学校・高等学校の実践事例22から学ぶ—」, pp. 23-28. <https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/3-shu0803/200803-3shu.pdf> (2020/02/03)
- 国立教育政策研究所 生徒指導研究センター (2011) 「子どもの社会性が育つ異年齢の交流活動」, pp. 2-12. https://www.nier.go.jp/shido/centerhp/2306sien/2306sien3_2s.pdf (2019/12/06)
- 国立教育政策研究所 教育課程研究センター (2019) 『みんなであらう、よりよい学級・学校生活をつくる特別活動小

学校編』, 文溪堂

松井理納, 稲垣応顕 (2009) 『集団を育むピア・サポート—教育カウンセリングからの提案—』, 文化書房博文社.

森田洋司 (2010) 「生徒指導提要とこれからの生徒指導—社会的リテラシーの育成という視点から—」, 『生徒指導研究』, 第9号, pp. 11-16.

文部科学省 (2015) 「2030年の社会と子供たちの未来」, 教育課程企画特別部会論点整理資料. https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo3/siryo/attach/1364310.htm (2019/11/12)

文部科学省 (2010) 『生徒指導提要』, 教育図書.

文部科学省 (2017) 『小学校学習指導要領解説特別活動編』, 東洋館出版社.

富田富士也 (2020) 「手のかからないいい子が抱える苦悩」, 『月刊生徒指導』, 2月号, 学時出版, pp. 6-11.

栃木県総合教育センター (2016) 「平成27年度栃木の子どもの規範意識調査 (小・中・高) 報告書」. https://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/cyosakenkyu/kihan_ishiki_h27/pdf/kihan_ishiki_h27_all.pdf (2019/11/05)

吉成正士 (2010) 「ルールの基盤は、人とのつながり」, 『道徳教育』 9月号, 明治図書, pp. 58-60.

【活動の流れと内容】	【活動の手立て】	【1～7年の児童が】																										
<div>①問題の発見・確認</div> <p>学級や学校における生活上の諸問題から課題を見だし、議題を学級全員で決定する。</p> <p>議題解決の必要性を共有するとともに、話し合いの計画を立て、解決に向けて自分の考えをもつ。</p> <p>※①～③の段階は、実際に筆者が実践した。④、⑤はコロナ感染拡大防止のため、形態を変えて実施した。</p>	<div>見いだす</div> <p>「今月のめあて」があることを知っている</p> <table><tr><td>6年生 (n=123)</td><td>76.9</td><td>16.6</td><td>2.4</td><td>2.9</td></tr><tr><td>5年生 (n=89)</td><td>71.0</td><td>16.9</td><td>6.7</td><td>1.1</td></tr><tr><td>4年生 (n=109)</td><td>61.5</td><td>27.5</td><td>5.5</td><td>2.7</td></tr><tr><td>3年生 (n=128)</td><td>77.3</td><td>18.6</td><td>2.3</td><td>1.6</td></tr><tr><td>2年生 (n=107)</td><td>66.4</td><td>29.0</td><td>15.9</td><td>8.7</td></tr></table> <p>■よくあてはまる ■まああてはまる ■どちらともいえない ■あてはまりあてはまらない ■まったくあてはまらない ■未回答</p> <div>【本時のめあて】</div> <p>「時間を大切にする」にはどんなことをすればよいだろう。</p> <div>出し合う</div> <p>①自分の考えをふせんに書く。</p> <p>1人2枚</p> <p>1枚のふせんに1つの考えを書く</p> <p>時間は3分</p> <p>〇〇をする</p> <div>②解決方法等の話し合い</div> <p>よりよい生活づくりのために、取り組む内容や方法、役割分担などについて意見を出し合ったり、くらべ合ったりしながら話し合う。</p> <div>まとめる</div> <p>①くつぎ ②新しくつくり出す ③条件をつける ④「今はこれでしょう」で決める ⑤「それもいいね」でめずる ⑥ちよつとずつ全部する ⑦みんながなつとくして多数決</p> <div>くらべ合う</div> <p>②グループで、出し合った考えについて話し合う。</p> <p>なぜそう考えたのか、理由も話そう</p> <p>共感的に聞こう</p> <p>ふせんは用紙にはっていいよう</p> <div>③解決方法の決定</div> <p>意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして「合意形成」を図る。</p> <div>まとめる(決める)</div> <p>③出し合った考えをもとに、学級の考えを2～3つ決める。</p> <p>全校に8月のめあてとして全校に発信！</p> <p>決定!</p>	6年生 (n=123)	76.9	16.6	2.4	2.9	5年生 (n=89)	71.0	16.9	6.7	1.1	4年生 (n=109)	61.5	27.5	5.5	2.7	3年生 (n=128)	77.3	18.6	2.3	1.6	2年生 (n=107)	66.4	29.0	15.9	8.7	<div>【時間への注意】</div> <ul style="list-style-type: none">・時計(時間)を気にする。・タイマーをセットしてほしいことをする。・いつでも時計を見られるようにしててきばき行動する。 <div>【時間に関するさまりを守る】</div> <ul style="list-style-type: none">・チャイム着席を早くする。・帰りの会を早くする。・トイレは休み時間に行き授業中はなるべくいない。 <div>【時間の計画】</div> <ul style="list-style-type: none">・この時間にこれをする必ず決めて行動する。 <div>【時間の有効な使い方】</div> <ul style="list-style-type: none">・時間のすき間を0.1秒もあけないようによく話をする。・楽しく時間を使って時間の遅れをとらない。 <div>【他者への配慮】</div> <ul style="list-style-type: none">・違うことをしている人がいたら声をかけて注意する。	<div>【時間への注意】</div> <ul style="list-style-type: none">・時計をよく見る。・時間をよく見て規則正しい生活をする。 <div>【時間の計画】</div> <ul style="list-style-type: none">・計画を決めておく。・前もって計画しておく。 <div>【時間の有効な使い方】</div> <ul style="list-style-type: none">・自分の考えを発表する。(1秒も無駄にしないように自分が思っていることを相手に伝える。) <div>【他者への配慮】</div> <ul style="list-style-type: none">・相手の気持ちを考え行動する。(相手もしっかり時間が使えるように)
6年生 (n=123)	76.9	16.6	2.4	2.9																								
5年生 (n=89)	71.0	16.9	6.7	1.1																								
4年生 (n=109)	61.5	27.5	5.5	2.7																								
3年生 (n=128)	77.3	18.6	2.3	1.6																								
2年生 (n=107)	66.4	29.0	15.9	8.7																								
<div>②解決方法等の話し合い</div> <p>よりよい生活づくりのために、取り組む内容や方法、役割分担などについて意見を出し合ったり、くらべ合ったりしながら話し合う。</p>	<div>②グループで、出し合った考えについて話し合う。</div> <p>なぜそう考えたのか、理由も話そう</p> <p>共感的に聞こう</p> <p>ふせんは用紙にはっていいよう</p> <div>③解決方法の決定</div> <p>意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして「合意形成」を図る。</p> <div>まとめる(決める)</div> <p>③出し合った考えをもとに、学級の考えを2～3つ決める。</p> <p>全校に8月のめあてとして全校に発信！</p> <p>決定!</p>	<div>時計の時間を気にしながらこの時間にこれをする決めて時間をむだにしない。</div> <div>【時間への注意】、【時間の計画】 【時間の有効な使い方】</div>	<div>時間をむだにしないよう行動するため、時間をよく見て計画を立てる。</div> <div>【時間への注意】、【時間の計画】 【時間の有効な使い方】</div>																									
<div>③解決方法の決定</div> <p>意見の違いや多様性を認め合い、折り合いを付けるなど集団としての考えをまとめたり決めたりして「合意形成」を図る。</p>	<div>まとめる(決める)</div> <p>③出し合った考えをもとに、学級の考えを2～3つ決める。</p> <p>全校に8月のめあてとして全校に発信！</p> <p>決定!</p>	<div>【授業の振り返り】 解決方法を決定するには！</div> <p>○その人が時間を大切にするために、どんなことを考えているのかがよく分かった。 ○自分の考えを相手に伝えることも大事だけど、相手の考えを共感的に聞く事も大事 ○決めるのが難しかったです。 ○何個もいいところがあって、決めるのに時間がかかったけど、楽しかったです。 ○まとめる裏ワザを使ってまとめたいと思いました。 △ずっと自分のいいところやうやうがいのところもなかった。</p>	<div>・めあてを確認しよう【時間の計画】</div>																									
<div>④決めたことの実践</div> <p>決定したことについて、自己の役割を果たしたり、互いのよさを生かして協働したりして実践する。</p>	※児童の実践意欲は高まったと考えられるが、コロナ感染拡大防止のため異年齢集団による交流活動が行えず、決定したことを代表委員会や校内放送で配信する																											
<div>⑤振り返り</div> <p>一連の実践の成果や課題を振り返り、結果を分析し成長を実感したり、次の課題解決に生かしたりするなど、実践の継続や新たな課題の発見につなげる。</p>	<div>【1～3学年振り返りシートの自由記述より】</div> <p>○時計を見ることは少しずつできてきた。 ●1年生にもとても心に響いていたらしく、毎日(めあてを)読ませ、一日の中で何度も意識させると効果的だった。 ○チャイムが鳴ったら気持ちを切りかえることができた。 ●チャイムが鳴り始める前に片付けなどを始めた。 ○時間を守ると早く勉強ができた、長く休み時間ができるのでうれしい。 ▲1年生はめあての理解が難しい子もいた。 ▲朝の用意が8時にはできず、守れないことが多かった。</p> <p>(△は否定的意見、●・▲は教師が児童の実態を把握して記述した意見)</p> <p>※月末に全校に振り返りシートを配布した。各学級で、どのぐらい今月の生活目標を守ることができたかや、生活目標に基づいて生活してみえ気づいたことや感じ</p>																											

資料1 学級活動「学級や学校における生活づくり」の

8月の生活目標「時間を大切にしよう」を守るために考えた具体的な行動目標（下線部分はグループの考えに反映された言葉）

<p>【時間への注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 遊ぶ時も時計を見ながら遊ぶ。 	<p>【時間への注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時計を見て行動する。 	<p>【時間への注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時計を見て動く。 	<p>【時間への注意】</p> <ul style="list-style-type: none"> 時計をしっかり見てチャイムを守る。 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ったらすぐに席につく。 休み時間が終わるまでに着席する。
<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> 休み時間が終わるまでにチャイムが鳴ったらすぐに席につく。 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴り終わるまでに着席する。 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ったらすぐに席にもどる。 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムを守る。 チャイム着席をする。(3) 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ったらすぐに席につく。 チャイムが鳴り終わるまでに着席する。
<p>【時間の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立てて行動する。 	<p>【時間の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立てて時間を使う。 	<p>【時間の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にできることを考えてみる。 	<p>【時間の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 自分にできることを考えてみる。 	<p>【時間の計画】</p> <ul style="list-style-type: none"> 計画を立てて時間を使う。
<p>【時間の有効な使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 1時間の授業を大切に。 必要な行動だけをとる。 休み時間の間に次の授業の準備をする。 何も無い間を大切に。 先生がいないときに音読したりいろいろする。 	<p>【時間の有効な使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> やらなくてもいいことを区別して行動する。 時間を有効に使う。 別になくてもいい時間はなくす。 片付けなどを素早くしてやりたいことの時間をのばす。 	<p>【時間の有効な使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 空いている時間がないようにできることをする。 あまった時間を有効に使う。(例えばテスト勉強やできていないワークなど) ムダなことをとことんはぶく。(帰りの会の前のおしゃべりをしなければ早く帰れる。) 自分の好きなこと、得意なことをする。 大人になったとき自分にプラスになることをする。 	<p>【時間の有効な使い方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 先生がしゃべり出したり、友達が発表しているときはだまる。 たくさん発表したり、分からない問題は質問する。 時間を無駄にしない。(少しでも時間が余っていたら読書をするなど) 授業中いらないおしゃべりはしない。 発表して学習を進める。 おにごっこでけんかしない。 	<p>【時間に関するきまりを守る】</p> <ul style="list-style-type: none"> チャイムが鳴ったらすぐに席につく。(そうすると学べることも多くなる。) チャイムを守る。

【授業の振り返り】「考えをもつ」ことは

○1年生にも分かりやすさという、脳の体操みたいでした。

○だいたい人が時間を気にしていることを書いていた。

○「時間を大切に」する「めあて」の解決策はみんな似ているのが多かったの、思っていることは同じということが分かりました。

△考えがばらばらだった。

△1年生ができることが、あまり僕には思いつかなかった。(△は否定的意見)

<p>計画を立てて、1時間の授業を大切に。</p> <p>【時間の計画】</p> <p>【時間の有効な使い方】</p>	<p>その時にしていること、しなくていいことを区別して時間を無駄にしない。</p> <p>【時間の有効な使い方】</p>	<p>ムダなことををはぶきつつ、自分にできることを考えて、自分にプラスになることをする。そして、時計を見て動く。</p> <p>【時間の計画】</p> <p>【時間への注意】</p> <p>【時間の有効な使い方】</p>	<p>時間を無駄にしないため、先生がしゃべり出したり、友達が発表している時はだまる。</p> <p>【時間の有効な使い方】</p>	<p>時間を大切に使うために、けんかをしないで友達と話したり、読書をする。</p> <p>【時間の有効な使い方】</p>
---	--	--	---	--

【授業の振り返り】話し合ってみると...

○全学年に対しては少しむずかしかったけど、分かりやすさという言葉を一つとしたり、友達と一緒に考えることはできたと思う。

○みんなが書いたふせんをくっつけていたり工夫できた。

○時間を大切にすることの自分の意見をみんなに伝えられたので良かった。

○この学習で、少し人前で何か言うことが得意になった気がした。

○いろんな言葉が出てきて全部いいなと思った。

○自分の考えを伝えることができた。みんなの考えを聞いてより深まった気がした。

○同じグループの3人とよく話し合うことができたし、意見をぶつ合うことができてうれしかった。

○いい話し合いができたと思いました。

△話し合いがうまく進まなかったの、次はうまく進めたいと思った。(うまく進まなかった理由は)発表などがあまりできていなかったから。(△は否定的意見)

・時計を見て動こう【時間への注意】

・今しなければいけないことをきんとしてしよう【時間の有効な使い方】

なんだと気づきました。

(△は否定的意見)

【授業の振り返り】実践に向けて！

○6年生がまとも役ということが改めてわかった。低学年でも守りやすいルールを使ってみようかな。

○今月のめあてというのは6年生が決めてきちんと学校のことをしていくのは大変だと思うけど、この学校がよりよい学校になればいいと思います。

○ただ時間を大切にすることだけでなく、その大きな目標のために少しずつがんばっていくことが大切なんだなと思いました。

○この学習で学んだ時間の大切さを生活で取り入れようと思いました。

○たまにひまなときでも、なにかできるときがあるからきちんと計画を立ててがんばりたい。

○めあてがみんな守れたらいいなと思った。自分も気をつけます。

○私は1分1分を大切にすると、結果はどうであれ、自分のためにはなるなと思いました。

○ムダなことをしないようにしようと思った。

○今までぐちゃぐちゃ考えたことがなかったのがよかったです(いい経験になりました)。

○みんなで考えて振り返って楽しかった。

実践となった。

【4～6学年振り返りシートの自由記述より】

○時計をよく見るようになった。

○時計を見ながら動けた。

●チャイムの鳴る2分前に着席して準備ができていた人がいた。

●空いた時間に自主勉強やテスト勉強などの学習をしている人がいた。

○ほとんどの人が守れていた。

○今しなければいけないことをよく考えた。

△守れていないときが多かった。

(△は否定的意見、●・▲は教師が児童の実態を把握して記述した意見)

たことなどについて振り返ったものを、下学年、上学年に分けてまとめた。

学習過程（8月の生活目標「時間を大切にしよう」）

